

大分市のまちづくり・都市計画について  
深く知るなら  
まちづくり情報プラザへ

大分市のまちづくりや都市計画、住まいづくりに関する資料を見ることができます。

- 閲覧できる資料
  - ・「大分市都市計画マスタープラン概要版」をはじめとした、まちづくりや都市計画に関する資料
  - ・住環境整備事業に関する資料
  - ・大分市の区画整理事業に関する資料
  - ・都市計画事業の資料
  - ・大分きれい100選事業の紹介資料
  - ・市営住宅の入居募集に関する資料 など

- 場 所 J:COM ホルトホール大分1階
- 利用時間 午前9時～午後5時15分
- 休 館 日 第2・第4月曜日



第25回まちづくり情報カフェ  
都市づくりの痕跡を探す 無料  
—大分のインフラから街角の姿まで—

近世から近代に移る明治以降に、大分は急速に発展しました。現在も大分に残る当時の都市づくりの痕跡を、写真とともに紹介します。

3月22日(金) 午後6時～7時30分  
(午後5時30分開場)  
J:COM ホルトホール大分3階 302会議室

講師：佐藤 誠治さん (大分大学名誉教授)  
定員：72人 (当日先着順)

問 まちづくり情報プラザ  
☎544-5613

- 〈参考文献〉
- 大分市史編さん委員会 1988 『大分市史』
  - 佐賀関町史編集委員会 1970 『佐賀関町史』
  - 大分県総務部総務課 1987 『大分県史』
  - 大分放送大分百科事典刊行本部 1980 『大分百科事典』
  - 豊田 寛三 2016 『写真アルバム 大分市の昭和』



時代の痕跡もたくさんありますが、その一つが日本赤十字社大分支部の跡。Iichiko 総合文化センターのそばに、石垣や植えられていた立派な松の木が今でも残っています。赤と白の灯台がある大正4年にできた大分港も当時から姿をほとんど変えていません。また、大分港にある赤い灯台よりも少し別府側には、明治17年に完成した菡萏港かんたんがあります。

小さい港ですが、こちらが変わらずに残っています。現在は菡萏港や大分港周辺が「かんたん港園」として整備されています。明治時代から残っている港が、市民の憩いの場になっているというのも感慨深いですよ。昭和に入ると、宅地の整備も始まりまし。当時はまだ、田んぼの整理が主だったので「土地区画整理」なんていう制度はありませんでしたが、中島地区を中心とした約100ヘクタールの大規模な耕地整理は住宅のためであったと記録に残っています。この痕跡は、記念碑として残されています。



今でも残る建物では、大分銀行の赤レンガ館が有名ですね。これは、戦争の被害にあつて外壁しか



大分大学名誉教授  
佐藤 誠治さん

残っていないかったものを復興させました。当時の人々はきっと、プライドを持って残そうと取り組んだのだと思います。



# Inchanged landscapes

変わらない風景

## 府内城

本丸と二之丸、武家屋敷のある三之丸、町人が暮らす城下町部分を4重の堀によって囲まれていたが、明治に入ると、市街地の発展を図るために、中堀と外堀の埋め立てを行って。外堀埋め立ての跡に造られたのが外堀通りであり、その名前は現在でも残っている。火事や戦争の被害で多くの櫓は焼失したが、堀や石垣などは昔のまま残っており、写真を比べてみると、石垣の形が変わっていないことが分かる。

## 移りゆくまちなみの中で 変わらずに存在するもの

変わりゆく時代の中で、変わらないもの。歴史の記憶を留める痕跡を、建築や都市計画の専門家である、大分大学名誉教授の佐藤誠治さんに伺いました。

「大分は、戦争で被害を受けてから新しくつくられた都市で、歴史的な雰囲気を感じない」という人がいますが、それは違うと思っています。江戸時代の初期に大友館から府内に中心が移り、城を建て、それを取り囲むように城下町をつくるわけですが、それが今のまちの原型になっています。私たち専門家は「アーバンパターン(都市原型)」といいますが、大分市のアーバンパターンは府内城と府内城下町。このアーバンパターンは300年、400年経っても残るんです。戦争で被害を受けたくらいじゃ変わらない。大分市中心部からの主要な道路は、府内城下から伸びていた「小倉街道」「肥後街



大分市の近代的な都市づくりは、明治初年に始まります。この

道「伊予街道」「日向街道」の4つからできています。道路は一度造ったらそう簡単に消えないですからね。その他にもかつて建てていた施設の場所を知らせる石碑、お寺などからも、府内城や城下町の痕跡をたどることができます。府内城の素晴らしい痕跡といえば、石垣も。ぜひ、近くから注意深く見てください。石垣がいかに精巧に造られているか、分かるはず。大分市の近代的な都市づくりは、明治初年に始まります。この